



図1. 気温と雨量、日照時間の推移

【 貴重な大球 】

事前の情報から輸出会社の協力のもと幅広く生産圃場を調査して参りましたが、結論は良いとは言い難い状況です。一番の要因は春の定植遅れと寒さが重なったことで、初期生育期間が不十分なまま劇的に夏の気候に変化したこと、栽培期間の短さと言われています。また、生産地域によっては霜害による全体量の減少が発生した上に肥大不足が重なっています。私の調査した圃場では調査対象の定植サイズ8-10からは18-20や20-22の大球がほとんど見られず、サイズが不均一で13cm~20cmまで様々な球根サイズとなっています。特に北東部ドレンテ州は例年でも肥大が抑えられる地域ですが、今年は特に肥大が進んでいませんでした。南部のリンブルグ州（南東部）は北部よりは肥大が進んでいたものの、弊社の長年の調査と比較しても肥大の悪い年の値を示しています。

加えて、今年は品種による定植の順番が影響しました。例えば、シベリアは通常最後に定植する品種で最も春の初期生育が遅れた品種の一つです。一方、プレミアムブロンドは霜害に強いこともあり、例年通り2月に定植したため十分な生育期間を確保することができました。また、地域差も大きく、どの地域で栽培されているかにより状況が異なります。シベリアは多くがドレンテ州で栽培されており、最も肥大が進まなかった地域にあります。輸出会社の中には18-20以上の大球は出てこないだろうと言う担当者もいます。今のところフランス産は問題ないとの情報があり、オランダ産の不作をどの程度カバーできるかが日本への輸入球数を決める大きな要因になると思われます。一方でプレミアムブロンドは全てリンブルグ州で栽培されていることもあり今年では珍しく問題なく進んでいます。収穫も終盤に行われるため今の雨は問題にならないと見込んでいます。

今年は様々な要因が重なり“今年の特徴”をまとめることが難しい作柄となりました。輸出会社の担当者や意見が一致した点の一つが、“リン片の枚数が少ない”ことです。特に外リン片の数が少なく、春の天候が影響したと考えられます。また、ブラバント州以外の多くの地域では“球根内の芽が高い”形になっており、長く続いた秋の暖かさおよび雨により地温が下がらず収穫期を迎えたことが考えられます。